

イノベーション・マネジメントシステム

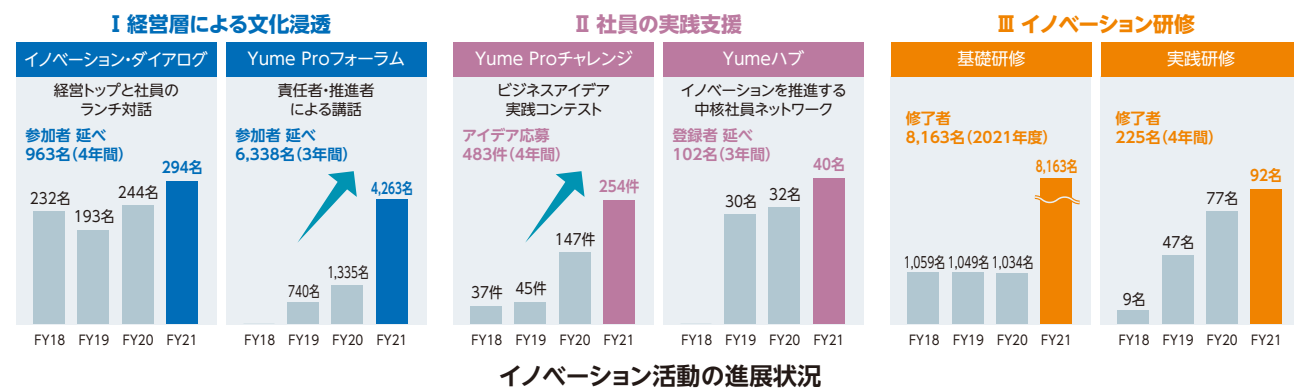
OKIは、2017年に国際規格ISO 56002を先取りしたイノベーション・マネジメントシステム (IMS)「Yume Pro」を導入し、2020年には「全員参加型のイノベーション」を推進することを宣言しました。具体的な活動の状況と成果事例を紹介します。

全員参加型のイノベーションを加速

OKIは2020年12月、IMS「Yume Pro」を全社のマネジメントシステムへ取り込み、「IMS Ready」な会社となることを宣言しました。2021年4月にはそのプロセス・手順を規定化するための全社プロジェクトを設置し、プロセスの試行と規定化へのフィードバックを進めています。また、中長期の目指す姿として、「イノベーション戦略」を策定し、毎年ブラッシュアップすることで、進むべき方向を明確化しています。

IMSのプロセスに沿った新規ビジネスを持続的に創出するための仕組みとして、ビジネスアイデアコンテスト「Yume

Proチャレンジ」を2018年度から毎年実施しており、2021年度はグループ全体から254件のエントリーがありました。また、経営陣と現場の直接対話「イノベーション・ダイアログ」には約1,000名が、情報展開のための「Yume Proフォーラム」には延べ6,338名が参加しています。2021年度のイノベーション基礎研修受講者は8,163名に達し、2022年度の目標であった6,000名を1年前倒して達成しました。イノベーションに向けた企業風土改革は着実に進展しています。



イノベーション活動の成果事例 (2022年3月末時点)

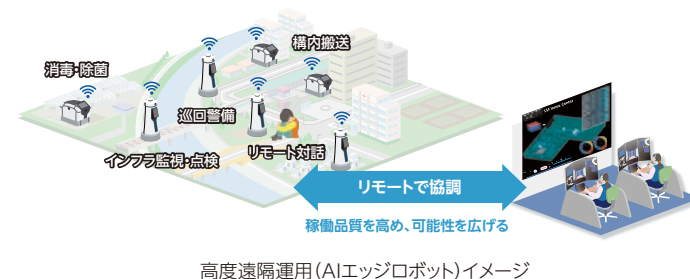
全員参加型のイノベーションを進める中で、「Yume Proチャレンジ」を含むイノベーション活動の成果としてすでにお客様やパートナーと共創が進んでいる事例を示します。

イノベーション創出事例

社会課題	SDGs	ソリューション
労働力不足 感染症拡大	5 ジェンダー平等 5.b 8 豊かになる経済成長 8.2 8.5 9 産業と雇用創出 9.1 9.4 11 住み続けられるまちづくり 11.1 11.3 16 平和と公正 16.1 16.2	高度遠隔運用 (AIエッジロボット)
高齢化問題 労働生産性	8 豊かになる経済成長 8.2 8.5 9 産業と雇用創出 9.2 9.4 12 持続可能な消費と生産 12.6	多点型レーザー振動計
感染症拡大 労働生産性	3 持続可能なエネルギー 3.4 8 豊かになる経済成長 8.1 8.5 9 産業と雇用創出 9.1 9.4 11 住み続けられるまちづくり 11.1 11.3	エリア収音ソリューション
労働生産性	3 持続可能なエネルギー 3.4 8 豊かになる経済成長 8.1 8.5	行動変容・睡眠改善ソリューション

1 高度遠隔運用 (AIエッジロボット)

労働力不足、感染症拡大などの社会課題解決のために、人工知能 (AI) を搭載した複数台のロボットと遠隔からの監視者が協調して対応する「高度遠隔運用」を開発中です。商用化に向けて、警備会社、施設管理会社などと現場での実証実験を行っています。



3 エリア収音ソリューション

感染症拡大防止の観点などからテレワークが普及する中、生活音や周囲雑音が問題になっています。これらを解決し生産性の向上を図るため、特定エリアの音声のみを収音するソリューションの実証実験を行い、商品化に向けて取り組んでいます。

M e s s a g e

実践モードにシフトチェンジ

OKIグループがIMS「Yume Pro」に取り組んで5年になります。2021年度は、グループ全体への「全員参加型イノベーション」の浸透・定着を目指した取り組みを行い、一定の成果があったと評価しています。特に企業風土改革という点では、IMSプロセスの規定化、イノベーション基礎研修、イノベーション・ダイアログなど、日常の中で一人ひとりがイノベーションを実践するための仕組みが整ってきました。2022年度はこの仕組みを活かして事業としての成果を創出するため、「実践モード」にシフトチェンジします。具体的には「実践支援」を重点活動と位置づけて、より実践モードにシフトした高いレベルのイノベーターを育成するとともに、日々の業務改善なども含めた「全員参加型のイノベーション」をさらに進化させていきます。

ビジネス創出の仕組みのひとつである「Yume Proチャレンジ」も年々応募件数が増え、アイデアの質も向上しています。このアイデアを事業化につなげる実践支援の一環として、教育プログラムの改善、社内のイノベーターを社外のパートナーと結びつけ

2 多点型レーザー振動計

レーザー光線を用いてモーターなどの機械設備の振動を非接触で検知し、老朽化した設備の予兆保全、労働生産性の向上に資する振動計測ソリューションとして、工場などで実証実験を行い、効果を確認しています。



4 行動変容・睡眠改善ソリューション

健康の三要素である「運動」「睡眠」「食事」のうち「睡眠」の問題解決のため、個人の行動特性に沿ったメッセージを適切なタイミングで通知することで行動変容を促し、健康を促進するサービスを目指しています。京都大学との実証実験によって医学的に有意な検証結果が出ており、パートナーとの共創により商用化を目指しています。



執行役員
イノベーション責任者、
技術責任者
藤原 雄彦

IMSの認証規格であるISO 56001は2024年の発行が想定されています。OKIはこれを踏まえ、2022年度末までにグループとしてのIMS構築を完了すべく準備を進めるとともに、IMSを理解するだけでなく行動を起こす社員が増え、IMSのプロセスに沿った新規ビジネスが持続的に創出されていくよう活動を継続し、IMSの認証規格に基づく企業となることを目指します。

OKIのイノベーション・マネジメントシステム「Yume Pro」
https://www.oki.com/jp/yume_pro/
 イノベーション戦略
https://www.oki.com/jp/yume_pro/strategy/20220310-01.pdf